

家庭教育力の強化を図ろう

～資源回収をつうじて資源の大切さを再認識～

豊橋市立五並中学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は豊橋市の最南東に位置し、アカウミガメが来る表浜海岸まで約 2 km と豊かな自然に囲まれている。学校所在地である五並(イナミ) 校区は、「細谷・小島・小松原・寺沢・七根」という五つの地区が海岸線に沿って横並びになっており、黒潮が運ぶ穏やかな気候と豊川用水の恵みを受ける農業地帯でもある。全校生徒 97 名と小規模校である本校は、学校設立当時から大切にしてきた相互扶助の精神で、1 年生から 3 年生までの学年を越えた縦のつながりを大切にしている。

2 研究のねらい

豊橋市は「ごみゼロ運動発祥の地」であり、ごみゼロの意識は市民に浸透している。この意識を勤労体験学習を行うことで、美化だけではなく資源を生かす観点につなげ、自分たちの生活環境を守っていくのだという行動へと深化させていきたい。本校では、年に 2 回の「資源回収活動」を「勤労体験学習」という教育活動で実施している。体験学習を通して親子で資源を生かすことの利点や重要性を共有し、資源の分別や回収活動の第一歩を家庭で実施することで家庭内において子どもと親が共通のテーマで会話し行動することを増やし、「家庭教育力の強化」につなげることをねらいとした。

3 研究の仮説

「勤労体験学習」に P T A 役員・委員が積極的に関わることで、学校・生徒まかせの活動にとどまらず、各家庭の意識が高まり、家庭教育力の強化につなげることができるであろう。

4 研究の方法

P T A 役員・委員が当日の勤労体験学習だけでなく、事前・事後の活動にも積極的に参加することで生徒とともに活動する機会を多くもち、その効果を検証する。

5 研究の実践

(1) 勤労体験学習の事前活動への参加 (通学団会に出席し、生徒とともに学ぶ)

勤労体験学習の事前に実施する通学団会では各学年の生徒たちが回収地区ごとに分かれ、先生とともに資源回収の重要性を学ぶとともに、当日までいかに効率的かつ安全に回収できるかを話し合う。昨年度は、P T A 役員・委員が全ての地区での話し合いに参加することができなかったため、今年度は連絡を取り合い、どの地区にも P T A 委員が参加できるようにした。生徒と一緒に回収に向けて話し合う時間を共有することで、当日は同一歩調での取り組みができた。第 2 回勤労体験学習に向けての通学団会では、第 1 回資源回収での反省を生かし、より効率よく安全に活動することができた。



【通学団会への参加】

(2) 勤労体験学習への参加

本校では、広い校区に点在する家庭に対し、資源を回収する生徒数は少ない。そのため、各家庭から直接回収する方式を、豊橋市が設置したごみステーションで回収する方式に変更して実施している。回収告知案内は、家庭の協力のもと生徒が責任をもって行う。校区が広くごみステーション間の距離もあるため、回収には家庭の協力が不可欠である。各家庭において、子どもからの協力依頼や子どもとともに活動することを大切にさせていただくことができ、回収当日には保護者の協力のもと、力を合わせて回収することができた。生徒が目的意識をもって積極的に取り組む様子をPTA役員・委員以外の保護者や、地域のかたがたと共有することもできた。

(3) 勤労体験学習の事後活動

活動終了後は必ず振り返りのアンケートを実施し、気づいたことや改善点、生徒の活動の様子（特により取り組み）等を共有できるようにした。また、その後に開かれたPTA委員会では、振り返りをもとに次回の取り組み方や今後の資源回収の方向性についての話し合いの時間を設定した。年々資源回収量が減少してきていることが周知されていないことや、資源回収による金銭的なメリットが共有されていないことが問題点としてあがった。また、回収活動の周知についてもさらなる工夫の必要性を感じ改善策を話し合うことができた。天候により回収ができなくなるとさらに収益が不安定になることから、常時活動として、キロ単価が高く、防火面でも安全なアルミ缶回収を実施したらどうかと学校に提案し、現在実施している。また、毎月発行の学校だよりで資源回収やアルミ缶回収について情宣してもらうようにした。便りを通して定期的に保護者や地域の方の目にとまるようになったことで、回収活動に対する理解と協力する意識は少しずつ高まっている。



【回収ボックス】

5 研究の考察

勤労体験学習では、生徒は通学団会で事前に計画を立案し、そのことについて家庭で話をする。ここにPTAの活動としてさまざまな形で介入することで、取り組みやその後の振り返りが充実し、改善策を立てて次に生かすというPDCAサイクルの流れができてきている。さらに、一つ一つの活動を検証しながら深堀りすることで、家庭や地域の問題として捉えられるようになったと考える。

6 成果と今後の課題

6月からアルミ缶の常時回収の情宣を開始した。アルミ缶回収の目的が各家庭に浸透し始め、回収量は増えている。アルミ缶を生徒が持ってくる姿もあり、家庭での資源のリサイクル意識やPTA活動に協力する意識の高まりが感じられる。勤労体験学習や日常の回収活動への取り組みを通して、家庭内のコミュニケーションが増え、家庭教育力の強化につながればと考える。

「PTA活動をより楽しく」というテーマを来年度以降も継続していけるように引継ぎをしっかりとしていきたい。